

登録コード	E9106400	開講年度	2026				
授業科目	心理実習					担当教員	茅野 理恵
英文授業名	Practocal Training in Psychology					副担当	高橋 知音・高橋 史・向井 秀文
単位数	2	講義期間	通年(集中)	曜日・時限	水曜・5時限 金曜・1時限 金曜・2時限	対象学生	4年生
講義室	教育E504講義室	教育E401	授業形態	実習	遠隔授業科目	備考	公認心理師科目
信大コンベンション該当							
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	26Eカリ, 25Eカリ, 24Eカリ, 23Eカリ, 22Eカリ, 21Eカリ, 20Eカリ						
	教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観				・援助者としての自分の言動および感情を振り返り、これに基づいて自らの行動を変容させようと試みることができるようになる。 ・実習生として、教育支援センターのスタッフや通室生に対し、責任ある態度で接することができるようになる。		
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能				・子どもへの援助について、対象児童生徒の視点から何をどのようにしたらよいのかを具体的に考えることができるようになる。		
	26Eカリ, 25Eカリ, 24Eカリ, 23Eカリ						
	他者と協働して教育活動をつくる社会的スキル				・実習生として、教育支援センターのスタッフや実習生同士で協働し通室生の体験活動の企画運営を行なうことができる。		
	理論と実践を往還する省察と改善の態度				・子どもへの援助について、自身の振り返りや事例検討会を通してよりよい支援の在り方を考え続けることができる。		
(2)授業で学べる「テーマ」	多文化協働						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	・長野市教育支援センターSaSaLandでの実習を10日間行い、不登校等の状態にある児童生徒への関わり方、事例検討の方法を実践的に学ぶ。 ・全体を通して、担当教員が公立小中高等学校および教育専門機関における教育相談等の実務経験を活かして実習指導を行う。						
(5)授業計画	第1・2回：事前指導（教育支援センターや長野市における不登校支援体制について学ぶ） 第3・4回：事前指導（援助ニーズの高い子どもの理解と対応について学ぶ） 第5・6回：事前指導（援助ニーズの高い子どもの理解と対応について学ぶ） 第7・8回：事前指導（実習日誌・レポートの記入方法等について知る） 第9回：教育支援センターでの実習（教育支援センターでの生活を知る） 第10回：スーパービジョン 第11回：教育支援センターでの実習（通室生の実態を知る） 第12回：教育支援センターでの実習（通室生の特徴を把握する） 第13回：教育支援センターでの実習（通室生の背景情報を収集する） 第14回：スーパービジョン 第15回：教育支援センターでの実習（特定の通室生への対応を検討する） 第16回：フレンドDAY計画 第17・18回：中間報告会（他の中間教室の様子を知ると共に、これまでの実習を振り返り、目標をより具体的に修正する） 第19回：教育支援センターでの実習（特定の通室生への対応を試みる） 第20回：教育支援センターでの実習（特定の通室生への対応結果から対応を再検討する） 第21回：スーパービジョン 第22回：フレンドDAY計画 第23回：教育支援センターでの実習（特定の通室生を支援する援助資源との連携を検討する） 第24回：教育支援センターでの実習（教育支援センター全体の運営を検討する） 第25回：教育支援センターでの実習（9回の実習を振り返り、通室生への援助について検討する） 第26・27・28回：事後指導（「特別な援助ニーズのある子どもへの支援とは」をテーマにディスカッションを行い実習で学んだことを言語化すると共に、今後の課題を検討する）・授業アンケート レポート提出						
(6)成績評価の方法	1)以下を統合して判断する ・実習における社会性・積極性を確認する「参加実績」および「参加態度」：40% ・毎回の実習の振り返りと自らの目標の検討について確認する「実習日誌」：20% ・事例検討会における自らの言動および感情の振り返りとその後の行動目標の設定を確認する「参加態度」および「実習日誌」15% ・体験活動の企画・提案・実施における計画性・協調性・積極性を評価する「企画提案」「参加態度」：15% ・子供への援助に関わる基礎的知識と態度についての理解度を確認する「ケースレポート」および「最終レポート」：10% ・評価割合は若干の調整を行うことがある。 ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。						
(7)成績評価の基準	(5)成績評価の基準 子どもと信頼関係を構築するため、どのようにしたら良いのかを具体的に示すことができるを踏まえて、実習中の自分の行動を振り返り、自分の長所と課題を把握する事ができる						

(7)成績評価の基準	不登校の子どもへの支援の全体像を把握し、必要な支援を検討することができる ケースレポートにおいて、必要な情報を収集し、これを分析して、支援方針を立てることができる ケースレポートにおいて、支援方針に基づいて支援を実践し、これを評価することができる ～ の項目を満たし、かつ教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」 ～ の項目を満たしていれば「かなり上にある」 ～ の項目のうち4項目を満たしていれば「やや上にある」 ～ の項目のうち3項目を満たしていれば「水準にある」
(8)事前事後学習の内容	・ 毎回の実習後には、実習中に生じた事実を記録すると共に、自分の対応と子どもの反応から何が生じていたかを考察すること。 ・ 毎回の実習前には、前回の実習の考察をもとに、実習の目的・目当てを明確にしておくこと。 ・ 毎月実施するミーティング後には、実習日誌の指定されたワークシートにディスカッションの感想を記入し次の実習の目的・目当てに反映させること。
(9)履修上の注意	1)「心理実習」を受講する学生は下記の条件を満たしていなければならない。 ・ 心理支援教育コースもしくは公認心理師カリキュラム履修希望者であること ・ 受講前に教育実習を修得していること ・ 4年次ガイダンス時に行う「心理実習資格試験」に合格していること 2)教育支援センターでの実習中は毎回日誌を記載して振り返りを行なうこと
(10)質問，相談への対応及び連絡先	茅野（理）研究室(E403) Tel：026:238-4207 e-mail：chinori@shinshu-u.ac.jp
【教科書】	特に指定はしません
【参考文献】	五十嵐哲也・杉本希映・茅野理恵 2022 学校で気になる子どものサイン増補改訂版 少年写真新聞社 五十嵐哲也・茅野理恵・杉本希映 2022 先生に知って欲しい家庭のサイン 少年写真新聞社 石隈利紀 1999 学校心理学 誠信書房